

学生の皆様へ

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)についての注意喚起

保健管理センター

5月21日、旦野原キャンパスにおいて、学生が1名、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)に罹患したとの報告がありました。当該学生の体調は改善しておりますが、周囲への感染のリスクもあり、注意喚起を行っています。今後、下記のことにご注意して行動してください。

1. 流行性耳下腺炎は、飛沫感染、接触感染で感染します。潜伏期間は約2～3週間で、高熱や耳下腺の腫脹等の症状を認め、通常1～2週間で軽快しますが、まれに髄膜炎、脳炎、膵炎、難聴、睾丸炎(男性)、卵巣炎(女性)などの合併症を起こす可能性もあります。
2. 上記のような症状(発熱、耳下腺の腫脹等)が出た場合は、マスクを着用して速やかに医療機関を受診し、保健管理センターまで報告してください。
3. 流行性耳下腺炎は、学校保健安全法に基づき、「耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで」出席停止となります。

流行性耳下腺炎については、下記(国立感染症研究所 HP)をご参照ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/529-mumps.html>